

学力を身に着け、自分の未来は自分で切り開こう
—「多様な選択肢のある人生」と「正常に機能する社会」を目指して—

栃木県立足利清風高等学校
第2学年講演会資料
2014年1月21日(火)
14:10～15:40
開倫塾
塾長 林 明 夫

Q 1 : 大学入試まで1年となりました。どうしたら希望校に合格できますか。

A : 大学入試の受験生としての「自覚」を持って学習することが第1です。自分は来年の1月に大学入試センター試験や各大学の入学試験を受験し、希望する大学への入学を果たすのだという「大学入試の受験生」としての「自覚」を持ってこれからの365日を真剣に過ごすことです。

Q 2 : 受験生としての「自覚」を持つためには、どうしたらよいのですか。

A : (1)自分は何のために大学に進学をするのか、「大学に進学する目的」を明確にすることが最も大切です。大学に進学して何を学び、大学を卒業してどのような仕事や活動がしたいのか、どのような人生を歩みたいのかを自分の力で考えることが大切です。

(2)希望する大学の入試合格はそのための一つ的手段にすぎません。大切なこと、目的とすべきことは大学に進学して何をするかです。

(3)大学進学目的がはっきりしている大学生にとって、大学はありとあらゆる学びの機会を用意している素晴らしい教育機関となり、大学のすべての教職員は最大限の支援をしてくれますよ。

Q 3 : そんな難しいことは今まで考えたことがありませんでした。どうしたらよいでしょうか。

A : 困りましたね。そうであるならば、お勧めしたいことが3つあります。

(1)第1は、家や学校の図書館、公立図書館、近くの大学にある大学図書館で、今日から新聞を毎日1時間以上読み、地域社会や日本、世界でどのようなことが起こっているのかを知ることです。

新聞は社会の番犬(watch dog、ワッチ・ドッグ)で、社会の問題の在りかをワンワンと声を出して示すことが社会的使命(ミッション)です。

新聞を一面からなめるように毎日1時間以上じっくりと読み、世の中で起こっていることで自分として最も関心のあること、おかしいと思うこと、不条理・義憤を感じることを、自分の人生を懸けて取り組むべきことを見つけることを私はお勧めします。

(2)第2は、読みたい本をじっくりと探して1~2週間かけてゆっくりと読むことです。筆者と時や空間を越えた対話をするをお勧めします。

(3)第3は、進学を希望する大学に土曜日や学校が休みの日などに一人で出掛けて行き、1日ゆっくりと過ごすことです。学校のオープン日まで待つ必要はありません。1日も早く行ってください。大学の購買部で本やノートを買ったり、レストランやカフェテリアで食事をしたりすること。近くにいる学生の何人かにこの大学はどのような大学かを聞くこと、許可を得て授業を見学させてもらうこと、図書館や体育館を見学することもお勧めします。入試課に行き、学校の資料も頂いてきましょうね。

大学生活や大学卒業後の進路についても、大学の学生課の方に是非質問してください。

Q 4 : 「受験生としての自覚」が深まると、どうなるのですか。

A : 私は、受験に限らず、学習効果は次の3つのかけ算で決定されると考えます。

(1)「本人の自覚」×「学習時間」×「学習方法」＝「学習効果」

$$0 \quad \times \quad 0 \quad \times \quad 0 \quad = \quad 0$$

$$10 \quad \times \quad 10 \quad \times \quad 10 \quad = \quad 1000$$

(2)「本人の自覚」があれば、「学習時間」が多少長くてもあまりストレスにはなりません。また、「学習方法」も自分の力でよく考えるようになり、いろいろと工夫するようになります。

(3)「本人の自覚」がないと、「学習時間」はあまり長くなりませんし、「学習方法」もあまり工夫しません。「本人の自覚」がなければ、いくら長い時間机に向かっても、また、すぐれた学習教材を用いても高い学習効果は期待できません。

(4)つまり、最も大切なのは「本人の自覚」、つまり「自分は大学入試の受験生であるという自覚」です。

Q 5 : 希望校の入試に合格するには、長い学習時間が必要ですか。

A : (1)先日の1月18日・19日の大学入試センター試験で高得点を取った人の学習時間は決して短い時間ではなかったと私には思えます。この1年以上、特に、入試直前になると眠る時間以外は学習時間という受験生が数多かったようです。

(2)学習時間の確保のためには、自分自身の行動を律しながら、コントロールしながら行動する能力、つまり「自律的に行動する能力」が求められます。受験生として今しなければならぬことをはっきりと自覚すること。例えば、ケータイやスマホ、ゲーム、長風呂、長TV、長い時間悩み続けることなどは避けたほうがよいと思われます。「ケータイの3分ルール」や「チャット」などは避けるほうがよいと思われます。

(3)「今やるべきことを今やる」。これは、受験生としての常識です。ただし、家の手伝いや学校での活動は、家族や高校生としての責任を果たすことです。積極的に行ってくださいね。

(4)ありとあらゆる細かな時間を活用して受験学習に当ててください。授業中の「内職」は絶対に避けましょう。受験科目ではないからといって教科の学習を放棄することはやめましょう。すべてが大学や社会で役に立つものですが、高校での学習は高校でしかできない、一生に1回しかないものです。1回1回の授業を大切にしてください。

(5)ですから、この「学年末試験」では、十分な時間をかけて全エネルギーを傾けて一心不乱に学習し、全科目100点を目指してくださいね。受験のための学習のよいスタートになりますよ。

*資料(「開倫塾ニュース」第302号、2014年3月1日号巻頭言原稿)を御覧ください。

Q 6 : では、次に効果の上がる「学習方法」についてお話をください。

A : 希望する大学の合格を勝ち取るためにはどうしたらよいか。今までのお話をまとめてみます。大切なことは3つあります。つまり、

(1)大学進学をの目的をしっかりと持ち、その目的を達成するために自分は1年後に大学入試を受ける大学入試の受験生であるという「自覚」を持つことが第1に大切。眠る時間以外は一心不乱に学習し続ける、つまり、長時間学び続けることが第2に大切。どのように学習したらよいのか、学習の仕方・方法を工夫することが第3に大切。そこで、3番目の「効果の上がる学習方法」を今からお話します。ここからが本日の私の講演の本番ですよ。

(2)私は、大学入試合格のための「学習」を「学ぶこと」と「習うこと」、「合格点を取ること」の3つの段階(ステップ)に分けて考え、1つ1つの階段、ステップを確実に踏むことをお勧めします。

Q 7 : 第1段階の「学ぶ」とは何ですか。

A : (1)私がいう「学ぶ」とは、各教科の学校の教科書、受験生であるならば各教科を学ぶ上で一番大切と考える教材を自分でよく読み、そこに書かれている1つ1つの内容を「ああ、これはこういうことか」とよくわかること、納得すること、よく「理解」することです。

(2)学校や予備校などの授業を受け、各教科の1つ1つの内容について「ああ、これはこういうことなのか」と「よくわかること」、「納得すること」、つまり、よく「理解」することです。第1段階の「学ぶ」とは、自分で教科書を読んだり、授業などで先生から教えて頂いたりしてものごとの本質がよくわかること、納得すること、「理解」することと私は考えます。

Q 8 : 教科書などを用いて「理解」するとき大切なことは何ですか。

- A : (1)「理解」で一番大切なことは「ジーン」と「ある一定時間」、できれば「長時間集中して机に向かうこと」です。教科書などを「一文字、一文字」じっくりと読み、これはこういうことなのかと、そこに書いてある意味を「一語、一語」かみしめることです。
- (2)次に大切なのは、教科書などを読んでいてよくわからない「文字」や「語句」があったらよくわからなくて「気持ちが悪い」と思い、「辞書」や「用語集」、各教科の詳しい「参考書」などを用いて調べる。調べた内容は、「ノート」に書き写すことです。
- ①「辞書」とは、「国語辞典」、「漢和辞典」、「古語辞典」、「英和辞典」、「英英辞典」などです。
- ②「用語集」とは、「日本史用語集」、「世界史用語集」、「倫理用語集」、「政治経済用語集」、「生物用語集」、「化学用語集」、「物理用語集」、「地学用語集」などです。
- ③「参考書」とは、受験生が普通に用いている各教科の受験参考書です。年表や地図帳などもこれに含まれます。
- (3)「ことばは力」です。英語や国語はもとより、社会や理科、数学でもどのくらい多くの「ことば」を知っているか、正確に身に着けているかで学力は決まります。正確に身に着けている「語彙(ごい)の多さ」が大切です。
- (4)このように、教科書などに出ているすべての「ことば」、「語句」について、「辞書」や「用語集」、「参考書」などを用いてこれはどのような意味なのかをよくわかること、十分に「理解」すること、「調べたことはノートに書き写すこと」がまずは大切です。
- (5)受験生にとって、「教科書」だけでなく「辞書」、「用語集」、「参考書」、「ノート」は「武士の刀」に当たります。「教科書」や「問題集」と同様に、「辞書」や「用語集」、「参考書」もたえず持ち歩いて身近に置き、ボロボロになるまで使いこなしましょうね。学校のロッカーの中にしまったままで取り出さないのでは学習に支障が出ます。

Q 9 : 「辞書」と「用語集」ですか。意外なものが出てきましたね。ところで、予習は何のために行うのですか。

- A : (1)学校の授業で学ぶ内容を、授業前に自分で教科書などで学習して「理解」に励むことを「予習」と言います。予習は何のために行うか。よい質問です。
- (2)「予習は自分の力で教科書や指定された教材をよく読み、また、教科書に載っている問題や問題集の指定された問題を自分の力で解き、よくわからないところ、自分の力ではどうしてもできない問題を発見する、はっきりさせてから授業に臨むために行うものだ」と私は考えます。つまり、「予習はよくわからないところをはっきりさせてから授業に臨むために行うもの」だというのが私の考えです。
- (3)この「予習」の考え方に基づいて、3月下旬や4月に高校3年生の新しい「教科書」を入手した直後から全教科の「予習」をしてみてください。面白いほど高校3年生の「教科書」の「予習」が進みますよ。ゴールデン・ウィークが終わるまでに全教科の「予習」を済ませることをお勧めします。
- (4)「わからないことをはっきりさせてから授業に臨む」ことが「予習」の目的であるという「予習」についての考えは、「大学」や「大学院」に進学してから役に立ちます。大学や大学院での授業や研究は、私が今述べた意味での「予習」を自分で済ませたことを前提にすべて行われるからです。家や下宿、学生寮には「予習」をするための「辞書」や「用語集」、「参考書」をすべて備えることは困難です。そこで、授業や研究の「予習」を自分で行う場として「大学図書館」が存在します。大学入学後こそ「予習」が必要です。高校3年生はその練習と考えて「予習」をしてみましょう。

- (5)この足利清風高校にも素晴らしい図書館がありますので、十分に活用してくださいね。足利市には、足利市民会館の隣に栃木県立足利市図書館があります。この近くにある足利工業大学の大学図書館は、許可を得れば足利市民や足利で学び働く人は誰でも利用できます。足利工業大学図書館も大いに利用させて頂きましょう。(多くの大学の図書館は許可を得れば誰でも利用できます)
- (6)大学入試の受験生や大学生・大学院生は図書室や図書館を大いに活用。「わからないところをはっきりさせてから授業に臨む能力」を1日も早く身に付けてください。
- (7)十分に準備をし、よくわかっていることとよくわからないことを明確にしてからものごとに臨むという予習の考え方は、社会に出て仕事や社会的な活動をするときに最も役立ちます。企業や社会で大切な「課題の発見」、「課題の解決」の基本は十分な下調べ、つまり「予習」だからです。

Q10：授業における「理解」のポイントは何ですか。

- A：(1)学校や予備校の授業に出席して先生のお話を聞き、「ああ、これはこういうことだったのか」とよくわかる、納得する、つまり「理解」する最大のポイントは、十分な「予習」です。
- (2)ただ、予習も大切ですが、「欠席」、「遅刻」、「早退」、「居眠り」、「ケータイやスマホ」、「ボーっとしていること」、「授業以外のことをしていること」は「授業での理解」の妨げになります。「私語」つまり「おしゃべり」は授業妨害行為そのものです。先生がお話しているときは「お口にチャック」、一言も言葉を発しないこと。
- (3)授業での「理解」で大切なことは、前の方の席、できれば一番前の席に着席することです。手を机の上に置き、先生の口元や表情を見てお話を聞くことも大切。さらに大切なのは、必要なことはノートにメモを取り続けること。先生が黒板に書いたことやお話されたことで大切と思われることを自分なりにまとめて「ノート」に取れるのは大切な能力です。

Q11：えー。「ノートが取れる」のは大切な能力なのですか。

- A：(1)その通りです。逆にお聞きしますが、皆さんは英語やフランス語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、ドイツ語で授業を聞いてノートが取れますか。英語はともかく、その他の言語での授業を聞いてノートが取れる方は極めて少ないのではないのでしょうか。
- (2)皆さんは、日本語や英語での授業についてはノートを取ることができる能力があるのではないと言えます。1つの言語の修得において、その言語によって学校での授業のノートを取ることができるのは、聞き取り能力や書く能力の中で最も高いレベルの能力と言えます。日本語での学校の授業を聞いてノートが取れるのは、皆さんの日本語の言語能力が極めて高いからです。高校や大学に在籍している間にしっかりと身に付けてくださいね。
- (3)人が話した内容をノートやメモに取れることは、社会に出て仕事や社会的な活動をするときに極めて大切です。ノートやメモを取る能力が身に着いていないと、仕事にならない、一歩も進まないことも多いと思われます。聞いたことのすべてを正確に記憶し、その記憶を長時間維持することは困難だからです。メモを取らず曖昧な記憶では、約束が果たせず、お客様やビジネスパートナー、同僚や関係者に大きな迷惑をもたらします。信頼を損い、損害や事件・事故を発生させることすらあります。「仕事や社会的な活動の上でメモを取る能力は極めて重要」です。その練習が、学校の授業でノートを取ることとも言えます。学校での教育はすべて社会で役立つとよく言われるのは、このようなことかもしれませんね。

Q12: 「定着」とは何ですか。

- A : (1) 「予習」や「授業」などでうんなるほどとよくわかった、「理解」した内容を、スミからスミまで正確に身に着けること。これを「定着」と私は呼んでいます。
- (2) 「理解」した内容をスミからスミまで正確に身に着ける、「定着」させるには、「音読練習」と「書き取り練習」、「計算・問題練習」の「3つの練習」が考えられます。この「3つの練習」を、私は「定着のための3大練習」と名付けました。
- (3) 「練習は不可能を可能にする」という慶應義塾・小泉信三先生の言葉が私は好きです。「定着のための3大練習」は、「不可能を可能」にします。

Q13: 「音読練習」はどのように行えばよいのですか。

- A : (1) まずは、「教科書」や「授業中のノート」、「大切な語句やその意味」、特に「定義(～とは…だ)」、「公式」などを、スラスラとよく読めるようになるまで少し大きな声を出して何回も、何回も読むことです。
- (2) 次に、教科書やノートの内容、語句の意味や定義、公式などが何も見ないでスラスラと口をついて出てくるようになるまで繰り返し、繰り返し、何度でも少し大きな声を出してひたすら読むことです。
- (3) 同時通訳で有名な国弘正雄先生は、学校の英語の教科書を 500 回以上ひたすら音読し、英語の基本を身に着けたそうです。
- (4) スミからスミまで正確に身に着けるまでひたすら声を出して読み続ける。この音読練習が、「定着」には最も効果があります。

Q14: 「書き取り練習」はどのように行えばよいですか。

- A : (1) 「音読練習」をして、「スラスラと読めるようになった」、「何も見ないでスラスラと口をついて言えるようになった」内容を、何も見ないで正確に書けるようになるまで、繰り返し、繰り返し書き取る練習をすること。これが「書き取り練習」です。
- (2) 「書き取り練習」をして身に着けた内容は、おそらく一生忘れることはありません。一生の宝物となります。
- (3) 書き取り練習をする「書体」は、読みやすい「楷書(かいしょ)」(教科書に出ているような書体)で書くように努めてください。「数字」もくずさずに正確に書くことを目指してくださいね。
- (4) アルファベットはブロック体だけでなく、筆記体でも美しく、また、速いスピードで正確に書けるように練習してください。
- (5) 日本人は書道の伝統があるためか、文字を美しく書くことのできる数少ない民族です。美しい文字を書く人は、どこの国でも教養のある人と高い評価を受けます。美しく、わかりやすい文字を書くことを「書き取り練習」を通して身に着けてください。

Q15: 「計算・問題練習」はどのように行うのですか。

- A : (1) なぜそのような解答になるのか、その理由が一度よく「理解」できた計算や問題は、その問題を見た瞬間に条件反射でパツ、パツ、パツと正解が出るまで繰り返し計算や問題を解く練習を行うこと。これが「計算・問題練習」です。
- (2) 教科書の計算や問題だけでなく、問題集の計算や問題、最終的にはその試験で過去に出題された「過去問」(かこもん)の計算や問題についてもこの練習をすることが「計算・問題練習」です。偏差値を1上げたければ1回、2上げたければ2回、15上げたければ15回、この計算・問題練習を行うべきと教える先生もおられますよ。

(3)「過去問」自体やその「解答・解説文」自体の「音読練習」、「書き取り練習」も極めて有用です。

Q16：「理解」、「定着」の他にも大切なことはありますか。

- A：(1)「過去問」を解くことです。「大学入試センター試験」でしたら、各教科の15年分の問題(追・再試験問題もあるので30回分)を5回以上解くこと。
- (2)間違えた問題をまとめる「間違いノート」と大切なことをまとめる「まとめノート」を作成し、繰り返し読み直すこと。この2つが大切です。
- (3)「模擬試験」や「大学入試センター試験」の「過去問」を解いたあとに大切なのは、全力を傾けて自分の力で解いた問題の内容を、学校の教科書と同じように大切に考えて、辞書や用語集、参考書を用いて出題されたすべての問題と解答集の解説文の「理解」に励むことです。「理解」した内容(出された問題のすべてと、解答集の解説文のすべて)を、「音読練習」と「書き取り練習」、「計算・問題練習」を繰り返してすみからすみまで正確に身に着ける、つまり「定着」させることです。
- (4)「間違いノート」と「まとめノート」も十分に「理解」し、「定着のための3大練習」を行うことです。
- (5)要するに、一度真剣に取り組んだすべての「テキスト」と「ノート」、「問題」をすみからすみまで正確に「理解」し、「定着」させること、これが学力の大幅向上のポイントです。
- (6)時間はかかりますが、学力は確実に急速に向上します。現在の成績は全く関係ありません。

Q17：大学入試のための学習は大学に進学して役に立ちますか、社会に出て役に立ちますか。高校での学習は大学に進学して役に立ちますか、社会に出て役に立ちますか。

- A：(1)大学教育の前提は高校での教育ですので、大学入試のための学習や高校での学習は全教科すべて役に立ちます。役に立たない内容は1つもありません。社会に出てもすべて役に立ちます。
- (2)むしろ、大学教育の大問題は、高校卒業生の学力があまりにも低くて大学の教育が成立しないことです。入試に出題される科目しか学習しないで大学に入学する人があまりにも多いためです。高校で学ぶべき内容を全教科とも本気で学習しない限り、大学の教育にはついていけません。また、高校で学ぶすべての教科は、社会に出て仕事や社会的な活動をする基本中の基本です。高校で十分に学習していないと、社会に出てからよい仕事や社会的な活動もできません。
- (3)ですから、学年末試験では、全教科をすみからすみまで正確に「理解」し、「理解」した内容は「定着のための3大練習」をしてすみからすみまで正確に身に着け、全教科100点満点を取って、3学年に進学してください。
- (4)3学年に進学してからも全教科をまんべんなく学習してから大学に進学してくださいね。

Q18：入学する大学が決定したら、大学の入学式までの間に何をしたらよいですか。

- A：(1)英語の学習を本格的に行ってください。英検は2級か準1級に1日も早く合格してください。
- (2)多くの大学では、大学入学後にTOEICという実用英語試験に挑戦させ、卒業までに600～650点以上のスコアを取ることが求められます。ですから、希望校に合格が決まった人はTOEICの学習も高校生のうちからスタートさせましょう。大学生になると、グローバル化に対応できる「英語によるコミュニケーション能力の向上」が求められます。
- (3)大学入学後、大学では多くの情報がPCを通じて提供されます。レポートなどもPCでの

作成や提出が求められます。「ワード、エクセル」の学習を初級、中級、上級と進めてから大学に入学しましょう。大学に入学してからも、より高度な「コンピュータのスキル向上」が求められます。

- (4) 自分のことは自分で行う。朝 1 人で起き、朝食やお弁当、夕食、おやつを自分で作ることができること。部屋やトイレ、風呂場を自分で掃除して清潔さを保つことができること。洗濯を自分でできること。夜は決まった時間に床に就き、十分な睡眠時間を確保して「健康を維持する」ことができること。これらはすべて大切な「能力」です。これらの能力を身に着けるための「学習」と「練習」を高校卒業までに終了させてくださいね。
- (5) 大学に出掛け、1 学年で学ぶ専門や教科、第 2 外国語のテキストを大学の購買部(書店)で買い予習することです。NHK ラジオの語学番組のテキストも超オススメです。英語以外の第 2 外国語が必修になっている大学では、ボーッとしていると授業に追いついていけず、単位が取得できずに留年や退学の原因になることがあるからです。
- (6) 大学入学後は、説明会などに参加して単位の履修の仕方を十分に学び、あまり無理をせずに必要な単位をお取りください。大学の授業はすべて 90 分。90 分の授業が 15 回で 2 単位となります。科目ごとにレポートや宿題が課せられることが多く、欠席が多いと期末テストが受けられません。90 分の授業について、大学図書館などを用いて 3 時間の予習や復習、調査・研究が前提とされるのが大学の授業です。
- (7) 大学に入学してどのようなことがしたいのかも、入学する大学に何回か出掛けて考えてくださいね。
- (8) 学校時代の友人は一生の友人。先生は一生の恩師です。友情を少しずつでも育んでくださいね。

Q19 : 最後に一言どうぞ。

- A : (1) これからの 1 年は、おそらく皆様がこれ以上学習したことがないというくらい熱心に学習する 1 年になると思われます。大学は高等教育機関で、そこに入学するにはそれだけの学力が求められるのですから、当然とも言えます。
- (2) ただし、覚えておいて頂きたいのは、このような 1 年を過ごすのは日本の高校生だけではないということです。中国でもインドでもアフリカでもヨーロッパでもアメリカでも、世界中で大学進学を目指す高校生は文字どおり「一所懸命」に「一つの所で命を懸(か)けるくらい熱心に」学習に励んでいるのです。グローバルな社会では、皆様の競争相手は日本の高校生だけではなく、世界の高校生です。同時に、これからの大学では留学の機会がたくさんありますので、世界中の大学生と友達になることもできますよ。
- (3) 学力が身に着くとどうなるか。「人生の選択肢」が増えます。「多様な選択肢のある人生」を歩む機会・チャンスが得られます。また、学力が身に着いた人が多いと「社会が正常に機能する」ようになります。また、個人として社会の課題解決に貢献することもできます。「正常に機能する社会の形成に貢献すること」も可能となります。

以上

